

平成23年1月の解説（週間天気予報）

【1月の天候状況】

上旬は、昨年末から旬のはじめにかけ強い寒気が西日本を中心に流入して強い冬型の気圧配置が続き、日本海側を中心に大荒れの天気となり、山陰では記録的な大雪となりました。その後も冬型の気圧配置が続き、日本海側は雪または雨の日が多くなり、太平洋側は概ね晴れました。中旬も冬型の気圧配置が続き、日本海側では雪または雨の日が多くなり、旬の中頃は日本海側だけでなく東海地方でも大雪となった所がありました。太平洋側は概ね晴れました。下旬は断続的に冬型の気圧配置が続き、日本海側は雪または雨の日が多くなり、旬の終わりは北陸地方を中心に大雪となりました。太平洋側は概ね晴れました。沖縄・奄美は、月を通して寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、西日本の日本海側と沖縄・奄美は平年より少なく、東日本の日本海側ではかなり少なくなり、月間日照時間の最小値を更新した気象官署がありました。一方、西日本から北日本の太平洋側は多く、特に、東日本の太平洋側ではかなり多く月間日照時間の最大値を更新した気象官署がありました。降水量は、北日本の日本海側で平年より多く、東日本の日本海側ではかなり多くなりました。一方、北日本の太平洋側は少なく、東、西日本の太平洋側ではかなり少なくなり、月降水量が0.0mmとなった気象官署がありました。気温は、北海道を除き全国的に平年より低く、特に西日本と沖縄・奄美ではかなり低くなり、月平均気温の最低値を更新した気象官署がありました。

【1月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より10ポイント高い82%でした。地方毎の適中率は、ほぼ全国的に7から18ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、ほぼ全国的に例年より0.4から1.0小さくなり、全国平均は0.7小さく1.5になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差もほぼ全国的に0.1から0.6小さくなり、全国平均は0.3小さい1.8になりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の週間天気予報の利用にあたって】

3月は季節が冬から春に移り変わっていきます。日に日に気温が上昇していき、下旬には西日本から桜が開花します。しかし北海道ではまだ雪の降る日が多く、冬日（最低気温が0以下）が続き、流水がオホーツク海を広く覆っています。一方で、沖縄地方では、下旬にはそろそろ海開きをする海岸が出始めます。昨年(2010年)の3月2日は、沖縄県石垣島の最低気温が21.8に対して北海道の幌加内町朱鞠内では-27.5となり、両者の差が約50にもなりました。このように3月は南と北では季節の進み方が大きく違うので、遠方にお出かけになるときは現地の週間予報の天気だけでなく気温にも留意下さい。